教　科	国語	単位数	3	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	現代文								

使用教科書	新版現代文（教育出版）
副 教 材 等	新訂総合国語便覧（第一学習社）　　確かめやすい漢字の総仕上げ（浜島書店）

1　学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1　近代以降の様々な文章を読む能力を高めます。 2　ものの見方、感じ方、考え方を深めます。 3　進んで発表し読書することによって人生を豊かにする態度を育てます。
評　価　方　法	1　中間考査と期末考査の成績、常用漢字テストの成績、プリント・提出物・ノートなどの内容、発表の仕方や内容、学習活動への参加の姿勢や態度を総合して１００点満点で評価します。 2　評価の内訳は、中間考査と期末考査の成績が７０%、漢字テストの成績が１０%、プリント・ノートなどの提出物の内容と発表の仕方や内容、学習活動への参加の姿勢や態度が２０%です。
生徒へのアドバイス	「現代文」は、近代以降の様々な種類の文章を読みながら、１年間の学習をとおして学習到達目標を達成します。担当者からの指示や説明などを良く聞いて、積極的かつ意欲的に授業に参加してください。また、毎時間、国語便覧や国語辞典を必ず用意しておいてください。評価については、上で説明したように様々な観点から行います。普段の授業の１時間１時間を大切にしてください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	1　進んで自分の意見や考えが表現できているか。 2　言葉に関心を持ち適切に使ったり、進んで読書しようとしたりしているか。 3　読書に対する意欲を自ら喚起し、読書力を高めようとしているか。	1　学習活動への参加の姿勢や態度 2　プリント 3　ノート
話す・聞く能力	1　日常的な課題に応じて様々な情報を収集し活用してすすんで表現しようとしているか。 2　文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合おうとしているか。 3　文章の理解を深め、興味・関心を広げるために創作的な活動を行おうとしているか。	1　学習活動への参加の姿勢や態度 2　プリント 3　ノート
書く能力	1　論理的な文章を読んで、書き手の考え方やその展開の仕方などについて意見を書こうとしているか。 2　目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、すすんで表現しようとしているか。	1　プリント 2　作文 3　定期考査 4　ノート
読む能力	1　論理的な文章を読んで書き手の考えや要旨を的確に捉えることができているか。 2　文学的な文章について、人物・情景・心情などを的確に捉え、表現を味わおうとしているか。 3　様々な文章を読むことを通して、人間・社会・自然などについて自分の考えを深めたり、発表しようとする姿勢があるか。	1　プリント 2　定期考査 3　ノート
言　語　事　項	語句の意味・用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえているか。	1　プリント 2　定期考査 3　漢字テスト

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4 5	１随想 「大人への丸太」 「想像への畏敬」 ２小説(１) 「山椒魚」	・随想の基本的な読み方を習得します。 ・着眼点の鋭さによって、よく知られた具体的な事例が抽象的に深められていくおもしろさを味わいます。 ・主人公の心理を読み取ります。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようにします。
	期末	5 6 7	評論Ⅰ 「コミュニケーションとしきり」 詩歌 「竹 「永訣の朝」	・評論の基本的読み方を習得します。 ・　作者の感じ方や考え方を文章から理解します。 ・　自分の体験と重ねて作者の考えを理解出来るようにします。 ・よく知られた言葉をもう一度見直すことによって、言葉が人間のあり方とどのように結びついているかについて、理解を深めます。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようにします。
2学期	中間	9 10	評論二 「蛙は一匹か数匹か」	・　評論の読み方に習熟します。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようにします。
	期末	10 11 12	小説二 「グレイの層」 詩歌 「短歌と俳句」	・　主人公の心情を自分に引きつけて理解します。 ・　小説に描かれた人間の心理をじっくり読み込みます。 ・　小説の持つ緊密な構成や文体を読み味わいます ・　近現代の代表的な作者の作品を鑑賞することで、短歌・俳句を自作する参考にします。 ・短歌と俳句の違いについて、認識を深めます。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようにします。
3学期	学年末	1 2 3	評論三 「虚構のリアリズム」 「地図の想像力 実用の文章	・身近な実例を通して、日常生活を見直す契機とします。 ・具体例を通して、現実と想像力との関係について理解します。 ・実用的な目的を果たすためにはどのような文章が適当か、判断する力を養います。 ・基本的な文章表現を身につけます。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようにします。
課題提出物等	1　授業の中で使用するプリントや作文など 2　ノート 3　夏休みの読書感想文 4　夏休みの課題（テキスト）			

教　科	地理歴史	単位数	4	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	日本史 B								

使用教科書	高校日本史 B（実教出版）
副 教 材 等	なし

1　学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解します。歴史を現代の課題と関連させて主体的に学び、歴史的思考力を養います。日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。
評　価　方　法	年間５回の定期考査を実施。 定期考査７割、平常点（ノート・提出物等）３割です。
生徒へのアドバイス	授業は講義を基本として、日本史の歴史的事実や事象について生徒が考え・発表する時間を設けながら展開します。意欲的態度で授業に参加することを要望します。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	歴史的事実や現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身につけているか。	定期考査・ノート提出
思考・判断	歴史の事実や歴史の構造に問題を見出し、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできるか。	定期考査・ノート提出
資料活用・表現	歴史的事実や歴史の構造について、自らの力で調べ、まとめることができるか。	定期考査・ノート提出
知識・理解	自ら調べた内容をもとに歴史的事実や歴史の構造について理解しているか。	定期考査・ノート提出

3　学習計画等

<table>
<tr><th>学期</th><th>考査</th><th>月</th><th>学習内容</th><th>学習のねらい</th></tr>
<tr><td rowspan="5">1学期</td><td rowspan="2">中間</td><td>4</td><td rowspan="3">第１章　文化と国家の形成
・旧石　器時代・縄文時代・弥生時代
・邪馬台国・大和政権・倭の五王
・氏姓制度
第２章　古代国家の形成
・飛鳥時代・古代国家・律令の成立
・平城京・奈良時代・国家仏教
・平安初期の政治と文化・摂関政治
・国風文化</td><td rowspan="3">文字を知らない時代の歴史は、発掘による考古学の成果により解明されることを理解します。

飛鳥・奈良に古代の都が成立した意味を考えます。
古代国家が中国などとの関係の中で成立したことをとらえます。
古代国家の政治・経済・文化の特徴をとらえます。</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td rowspan="3">期末</td><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="2">第３章　中世社会の成立
・土地制度・武士団・院政と保元
・平治の乱・平氏政権・鎌倉幕府
・承久の乱・地頭の荘園支配
・鎌倉の経済・元寇と幕府の衰退
・鎌倉仏教・北条氏の専制と悪党</td><td rowspan="2">在地の豪族が土地を守るため武装し、貴族に土地を荘園として寄進して保護を受ける荘園制が成立していく過程を考えます。
武士が次第に権力を獲得していく過程を考えます。</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td rowspan="5">2学期</td><td rowspan="2">中間</td><td>9</td><td rowspan="2">第４章　中世社会の展開
・建武の新政と南北朝の内乱・室町幕府
・室町の外交・北山文化・室町の経済
・惣村と一揆・戦国大名・東山文化</td><td rowspan="2">鎌倉幕府滅亡後、南北朝の内乱が長い間続くのはなぜか考えます。
室町幕府の性格と対外関係の特徴を考えます。
戦国時代とはどんな時代であったのか、その特徴を考えます。</td></tr>
<tr><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="3">期末</td><td>10</td><td rowspan="3">第５章　統一政権の成立
・大航海時代・織田信長・豊臣秀吉
・対外政策・桃山文化・江戸幕府
・幕藩体制・年貢と身分制
・禁教と貿易統制
第６章　幕藩体制の展開
・元禄・正徳の政治・江戸の経済
・享保の改革・寛政の改革
・文化文政期・天保の改革</td><td rowspan="3">信長・秀吉の天下統一政策の特徴をとらえます。
家康の政権樹立過程をとらえます。徳川幕藩体制の特徴を理解します。
幕府の貿易政策と宗教政策の特徴を理解します。
幕府の三大改革のそれぞれの特徴と諸藩の改革の成果を理解します。</td></tr>
<tr><td>11</td></tr>
<tr><td>12</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3学期</td><td rowspan="3">学年末</td><td>1</td><td rowspan="3">第７章　大日本帝国の誕生
・開国・尊王攘夷から倒幕へ・明治維新
・大日本帝国憲法・日清戦争・日露戦争
第８章　大日本帝国の展開
・第１次世界大戦・満州事変・日中戦争
・太平洋戦争・日本の敗戦
第９章　日本国憲法と現代の世界
・日本国憲法・日米安保・高度成長
・２１世紀の日本と世界</td><td rowspan="3">新政府の基本政策の特徴を考えます。
大日本帝国憲法の制定過程と内容の特徴をとらえます。
朝鮮や中国から日本への批判が強められているのはなぜか考えます。
１５年戦争は何をもたらしたのか、敗戦の意味を考えます。
地球時代の日本について考えます。</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>課題提出物等</td><td colspan="4">適宜課題を課します。ノート・プリント等の提出があります。</td></tr>
</table>

教　科	数学	単位数	2	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	数学Ⅰ								

使用教科書	新高校数学Ⅰ（実教出版）
副教材等	

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	二次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにします。
評価方法	1　中間考査、期末考査、小テスト、プリント及び課題、授業態度、出席状況、その他などで評価します。 2　学期及び学年の評価は、原則として中間考査と期末考査の成績で７０％、その他の項目で３０％の配分で評価します。
生徒へのアドバイス	・例題を参考に積極的に練習問題に取り組み、繰り返しの中で理解を深めることが大切です。 ・ノートは、単に板書を写すだけでなく、手順やそこで必要な公式等の確認事項などが十分に理解できるように作成することが大切です。 ・例題等を参考とし積極的に練習問題等に取り組み、繰り返しのなかで理解を深めることが大切です。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・関数の考え方を具体的な事象の考察に活用できるか。 ・不等式の解を求めるにあたり、グラフを活用することのよさを認識しているか。 ・角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、具体的な事象の考察に活用しているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・授業で使用するプリント ・授業ノートの整理 ・問題演習への取り組み
数学的な見方や考え方	・関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識しているか。 ・図形の計量の考え方について理解しているか。 ・三角比を鈍角まで拡張することの意義を理解しているか。	・定期考査、小テスト ・授業で使用するプリント ・質問に対する発表の内容 ・演習問題プリント
表　現・処　理	・２次関数のグラフをかくことができるか。 ・グラフが特定の条件を満たすとき、その関数を求めることができるか。 ・三角比の性質や正弦定理、余弦定理などを平面図形の計量に利用できるか。	・定期考査、小テスト ・授業で使用するプリント ・質問に対する発表の内容 ・演習問題プリント
知　識・理　解	・２次関数について理解を深め、グラフを最大,最小などの問題や２次不等式を解くことに活用できるか。 ・三角比の意味や図形の計量の基本的な性質について理解しているか。	・定期考査、小テスト

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	3章　2次関数 1節　関数とグラフ 1．1次関数とそのグラフ 2．2次関数とそのグラフ	・関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察に活用できるようにします。 ・2次関数について理解し、平行移動の考え方を利用して、そのグラフの概形をかけるようにします。
		5	3．いろいろな関数	・与えられた放物線のグラフからその2次関数を求められるようにします。
	期末	5	2節　2次関数の値の変化	
		6	1．2次関数の最大値・最小値	・2次関数の最大・最小を理解し、それを具体的な事象の考察に活用できるようにします。
		7		
2学期	中間	9	2．2次関数のグラフと2次方程式 3．2次関数のグラフと2次不等式	・2次関数のグラフとX軸との位置関係を利用して、2次方程式や2次不等式の解について理解を深め、2次不等式を解くことができるようにします。
		10		
	期末	10	4章　三角比と図形 1節　三角比 1．三角形	・直角三角形における三角比の概念を導入し、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解を深めます。
		11	2．三角比 3．三角比の利用	
		12	4．三角比の相互関係	
3学期	学年末	1	2節　三角比の応用 1．三角比の拡張 2．三角比の面積	・角を基にして測るという数学的な見方や考え方のよさを認識します。
		2	3．正弦定理 4．余弦定理	・三角形の面積の公式や正弦定理・余弦定理を活用して、平面や空間における図形の辺の長さや角の大きさ及び面積について考察できるようにします。
		3		
課題提出物等	①　春季休業中及び夏季休業中の課題。 ②　必要に応じてノート及び授業中に使用したプリント等。			

<table>
<tr><td>教　科</td><td>理科</td><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">学科</td><td rowspan="2">健康スポーツ科</td><td rowspan="2">学年</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">全／選</td><td rowspan="2">全</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td>生物Ⅰ</td></tr>
<tr><td>使用教科書</td><td colspan="9">新編　生物Ⅰ（東京書籍）</td></tr>
<tr><td>副教材等</td><td colspan="9"></td></tr>
</table>

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	1　広い視野から多種多様な生物とその生物現象に興味･関心を持ち，そこから新たな疑問点を見出すことで生物についての理解を一層深めます。 2　観察，実験を通して探求する能力と科学的な自然観を身に付けます。 3　基本的な概念や原理・法則を理解します。
評価方法	中間と期末の定期考査の成績で７０％，課題，実験レポート，授業ノート，プリント等の提出物，その他，授業への取り組みを含めて３０％の配分で総合的に判断して行います。
生徒へのアドバイス	・１回ごとの授業を大切にし，授業を通して，生物についての科学的な見方や考え方ができるように前向きに取り組みましょう。 ・誠実な授業態度を常に大切にしましょう。 ・身近な自然、生物にも目を向けましょう。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・自然の事物・現象に関心を持ち，意欲的に授業に参加し取り組んでいるか。 ・教師の発問に対して，意欲的に答えているか。・授業態度は良好か。	・授業への参加の仕方や態度 ・ノート，プリント，レポートの内容及び提出状況 ・ノート，プリントの活用状況及び記入状況
思考･判断	・自然界の現象に関して，様々な観点から考察を加え，論理的に考えることができるか。 ・客観的な事実に基づいて生物現象を科学的に判断することができるか。	・定期考査の記述式問題。 ・レポートの内容 ・授業で使用するプリントの記入状況 ・発表の内容や仕方
観察・実験の技能・表現	・観察，実験の方法や実験器具の操作を理解して正しく行う能力を身につけたか。 ・自然界の生物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。 ・実験，観察の結果を的確に表現することができるか。	・定期考査での観察，実験に関する問　題 ・レポートの内容 ・授業で使用するプリントの記入状況 ・発表の内容や仕方 ・実験器具の操作や方法
知識・理解	・自然の事物・現象における原理 ・法則などの基本的な知識や考え方を理解しているか。 ・観察，実験の目的や実験の原理などを理解しているか。	・定期考査 ・ノート，プリントの活用状況及び記入状況 ・レポートの内容

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4 5	4．刺激の受容と行動 (1)刺激の受容から反応まで	刺激を受容する器官、神経の興奮とその伝達、中枢神経系の働き、動物の反応などについて学び、刺激の受容から反応までの関連を理解します。
	期末	5 6 7	(2)動物の行動	動物のさまざまな走性、本能行動について学び、実際の生物の生活の中でどんな行動が見られるかを理解します。
2学期	中間	9 10	5．内部環境と恒常性 (1)内部環境と体液	内部環境とは何か、体液とその働き、恒常性の維持のしくみ、生体防御のしくみ、体液成分の調節などについて学び、人間をはじめとして動物の体がどのように保たれているのかを理解します。
	期末	10 11 12	(2)自律神経系と内分泌系	(1)に続いてホルモン、自律神経系などの働きによる恒常性の維持のしくみについて学び、人間をはじめとして動物の体がどのように保たれているのかを理解します。
3学期	学年末	1	6．環境と植物の反応 (1)植物の生活と環境	植物の水の吸収、水分上昇のしくみ、蒸散、光合成などについて学び、植物が環境の影響を受け、うまく適応していることを理解する。
		2 3	(2)植物の反応と調節	植物の伸長成長、種子の発芽や花芽の形成などについて学び、植物が環境の影響を受け、うまく適応していることを理解する。
課題提出物等	・授業プリント ・授業ノート ・学習ノート ・実験・観察レポート			

教　科	保健	単位数	1	学科	普通科 健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	保健体育								

使用教科書	現代保健体育（大修館）
副 教 材 等	現代保健ノート（大修館）

1　学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てます。
評　価　方　法	考査の成績や提出物、出席状況、授業への取り組み等を考慮して評価します。
生徒へのアドバイス	自らが健康な生活を実践したり、心の健康にも配慮したりする等、日常生活の中で健康を意識し、欠席・遅刻・早退等をしないですむようにしてください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む。	授業への参加意欲の観察 個人やグループのノートの読み取り テスト
思　考・判　断	個人生活や社会生活における健康・安全について課題の解決を目指して考え、判断している。	授業への参加意欲の観察 個人やグループのノートの読み取り テスト
知識・理解	個人生活や社会生活における健康・安全について課題解決のための事項を理解し知識を身に付けている。	授業での態度の観察 個人やグループのノートの読み取り テスト

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	２単元：生涯を通じる健康 1　思春期と健康 2　性意識と性行動の選択	思春期の体の発達等の特徴を理解します。 性意識の男女差や性行動選択の影響を理解します。
		5	3　結婚生活と健康 4　妊娠・出産と健康	健康な結婚生活を営むための留意点を理解します。 受精・妊娠・出産の過程とその間の 健康について理解します。
	期末	5	5　家族計画と人工妊娠中絶	家族計画の意義と避妊法を理解します。 人工妊娠中絶の条件と心身への影響を理解します。
		6	6　加齢と健康 7　高齢者のための社会的とりくみ	加齢に伴う心身の変化と健康な生活を営むための留意点を理解します。 高齢者の生活や健康に関する現状と、 高齢化社会への対応を理解します。
		7	8　保険制度と保健サービスの活用 評価	保健行政の役割としくみ及びその活用法を理解します。 １学期末考査
2学期	中間	9	9　医療制度と医療費 10　医療機関と医療サービスの活用	医療保険・医療費のしくみを理解します。 医療機関の選び方や医療機関・医師からの情報の引き出し方を理解します。
		10	３単元：社会生活と健康 1　大気汚染と健康 2　水質汚濁と健康	大気汚染のおこり方や影響を理解します。 水質汚濁のおこり方や影響を理解します。
	期末	10	3　土壌汚染と健康	大気汚染のおこり方や影響を理解します。
		11	4　健康被害の防止と環境対策 5　環境衛生活動のしくみと働き	4　健康被害の防止と環境対策 5　環境衛生活動のしくみと働き
		12	6　食品衛生活動のしくみと働き 評価	食品の衛生管理のための、行政・製造・生産者の対策を理解します。 ２学期末考査
3学期	学年末	1	7　食品と環境の保健と私たち 8　働くことと健康	食品の安全確保のための対策を理解します。 労働と健康の相互の影響と、労働者の健康問題の変遷を理解します。
		2	9　労働災害・職業病と健康 10　健康的な職業生活	労災の防止対策と職場の健康管理の必要性を理解します。 職場の健康増進対策を理解します。
		3	１年間のまとめ 評価	１年間の学習活動をまとめる 学年末考査
課題提出物等	各種レポート			

教　科	芸術	単位数	2	学科	普通科 健康スポーツ科	学年	2	全／選	選
科　目	音楽Ⅱ								
使用教科書	音楽ⅡＴｕｕｔｉ　改訂版（教育出版）								
副教材等									

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	1　音楽に対する興味、関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む姿勢を身につけます。 2　音楽１を基礎に音楽をとおして自己表現する能力を養います。
評価方法	学期全体の評価は実技活動に関わる分野を７０％，学習活動への参加の仕方や態度を３０％として行います。
生徒へのアドバイス	1　遅刻・欠席をしないでください。 2　楽器、楽譜などは常に大切に扱ってください。 3　毎時間に授業は積極的に参加してください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	1　音楽上の幅広いジャンルに対して興味関心を高めているか。 2　意欲的に楽曲演奏に取り組むと共に、鑑賞教材の視聴等における集中力の維持、アンサンブルにおける他パートとの協調性や積極性などが保たれているか。	・演奏活動への参加の仕方や態度 ・プリント、ノート等の提出状況
芸術的な感受や表現の工夫	1　楽曲の特質を知ったうえでそれが生み出す曲想や美しさを感じ取って、表現の工夫をしているか。	・実技テストの内容 ・演奏発表の内容 ・授業時の練習の態度や工夫
創造的な表現の技能	1　楽曲から感じ取ったイメージを創造的に表現する技能を身につけているか。 2　楽譜に示された記号や標語の意味を把握し、それらが示している曲想を感じ取り表現する技能を身につけているか。	・実技テストの内容 ・授業時における表現方法
鑑賞の能力	1　鑑賞教材の演奏法、楽器の特徴、構造を理解して聞き取っているか。	・鑑賞ノートの内容 ・授業時における鑑賞態度

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	・　Ｔｏｍｏｒｒｏｗ ・　小さな空 ・　どじょっこ　ふなっこ	・手軽な輪唱をもとにハーモニーの楽しさを味わいます。 ・詩と曲の楽しさを味わいます。
		5	・沖縄の音楽、音階について ・谷茶前 ・花～すべての人のこころに花を ・涙そうそう・島唄 ・おお　ひばり（２部）	・１０月に沖縄に修学旅行に行きます。 その前に沖縄の音楽や楽器に触れさせ、興味を持たせます。 ・簡単なハーモニーはすぐ出来るようにします
	期末	5	・沖縄と三線・三線の歴史について ・かんから三線の製作 ・三線の音階，調弦	・三線の音や沖縄音楽に興味を持っているか確認します。 ・調弦がうまく出来るようにします
		6	・三線の演奏＜チューリップ＞ ＜きらきら星＞ ・タブ譜を使って涙そうそう、花の弾き語り	・積極的に練習しているか確認します。 ・タブ譜の読み方を理解します。
		7	・実技テスト（三線）	・楽器演奏態度、実技評価
2学期	中間	9	・Ｔｒｉａｎｇｕｉｅ ・風になりたい	・沖縄出身のシンガーソングライターの曲を力強く歌い上げ、仲間とともに感動を分かち合います。
		10	・キーボードアンサンブル 教則本や月刊誌から自分で好きな曲を選び、２人から３人のグループでアンサンブル	・選曲の段階から個性を出し、友人とアンサンブルする喜びを見いだしているかを評価します。
	期末	10	・キーボードアンサンブル	・各グループの目標にむかって演奏しているか確認します。
		11	・キーボードアンサンブル	・各グループでお互いを聞き合う演奏が出来ているか、個々の力が付いているかどうかを確認します。
		12	・発表会形式テスト	・各自努力し、工夫があるか ・恥ずかしがらず堂々と自己表現出来たかを評価します。
3学期	学年末	1	・　愛の賛歌 ・　枯れ葉・オンブラ・マイフ ・つゆ	・独唱曲と共に声を出す喜びを感じているかを確認します。 ・教科書の３部合唱をこなします。
		2	・Ａｍａｚｉｎｎｇｕ　ｇｒａｃｅ ・ドラムの説明及び２ビート４ビート ワルツ　８ビートの練習	・ゴスペルのリズムに乗って歌えるようにします。 ・初心者でも８ビートまでのドラムが叩けるようになったか確認します。
		3	・ドラムテスト ・音楽理論テスト	・経験者、初心者ともにどれだけ出来るようになったかを評価します。 ・音楽２を通して自己表現がうまく出来るようになったか評価します。
課題提出物等	・毎回いろいろなＣＤやＤＶＤ鑑賞します。その感想は毎回提出し、プリントと共に平常点で評価します。			

<table>
<tr><td>教　科</td><td>芸術</td><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">学科</td><td rowspan="2">普通科
健康スポーツ科</td><td rowspan="2">学年</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">全／選</td><td rowspan="2">選</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td>美術Ⅱ</td></tr>
<tr><td>使用教科書</td><td colspan="9">美術２（光村図書出版）</td></tr>
<tr><td>副教材等</td><td colspan="9"></td></tr>
</table>

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	美術の創造活動を通して、美的感覚を洗練し、表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化について、その歴史的、文化的な意味と価値を理解し、生涯美術を愛好する心情を育てます。
評価方法	学期全体の評価は実技活動に関わる分野を７０％，学習活動への参加の仕方や態度を３０％として行います。
生徒へのアドバイス	あくまでも生徒が主体です。全員が一同に意欲的に創作活動ができるように、常に実技試験のつもりで授業を進めていきます。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	美術に関心を寄せ、意欲的に学習活動に取り組み行動ができる。	学習活動への参加の仕方や態度。
芸術的な感受や表現の工夫	題材のテーマをよく理解しているか。テーマに合った形、色、構成などをよく考えて、独自の工夫をして表現している。	提出作品
創造的な表現の技能	課題に対して感性や想像力を働かせて効果的な表現ができる	授業への取り組み。
鑑賞の能力	一人一人が自己の作品のみならず、他人の作品に対しても良さや美しさを味わい、自己の考えを率直に述べることができる。	鑑賞の態度および発表。

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	（1）木彫 ・アイデアスケッチ	・木材を理解し立体感覚を養い、加工方法を身に付けます。
		5	・下絵制作	・過去の彫刻の作品を鑑賞し理解します。
	期末	5	・転写 ・加工	・彩色の方法と配色の美しさを学習します。
		6	・彩色	
		7	（2）鑑賞	・仕上がった作品を観ながら、お互いのよいところなどの感想を述べ合い鑑賞します。
2学期	中間	9	（3）レザークラフト ・下絵制作	・皮革という材料を学び、加工方法を体験し作品を仕上げます。
		10	・転写	
	期末	10	・加工	・加工することによって生活用具の皮革製品に思いをはせます。
		11	・彩色	
		12	（4）鑑賞	・仕上がった作品を観賞し、お互いのよいところなどの感想を述べ合い鑑賞します。
3学期	学年末	1	（5）切り絵 ・下絵制作 ・転写 ・切削	・白と黒の画面の美しさや立体感の表し方を学習します。 ・バランスの取り方を理解します。 ・細密な作業を体験し感覚を養います。
		2		
		3	（6）鑑賞	・仕上がった作品を観賞し、お互いのよいところなどの感想を述べ合い鑑賞します。
課題提出物等	・教材を用意。 ・決められた期日までに作品提出。			

教　科	芸術Ⅱ	単位数	2	学科	普通科 健康スポーツ科	学年	2	全／選	選
科　目	書道Ⅱ								
使用教科書	新編　書道Ⅱ（教育出版）								
副教材等	基本ペン習字（教育図書）								

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	1　書道における創造的な諸活動を通して，書を愛好する心情を育てます。 2　書を楽しむ態度を通して，感性を高め，書の文化や伝統についての理解を深めます。 3　１と２の学習を通して，個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし書の美に親しむ心を養っていきます。
評　価　方　法	学期全体の評価は実技活動に関わる分野を７０％，学習活動への参加の仕方や態度を３０％として行います。
生徒へのアドバイス	1　書道の学習においては，まずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 2　技法の習得は主として古典の臨書によりますが，ただ枚数を重ねるのではなく１枚１枚，１字１字について「何が出来るようになったか」を大切にします。１時間の中での進歩，単元を通しての進歩，そして，１年間の学習を通しての進歩が感じとれるような学習への取組を期待します。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・書を愛好し，さまざまな書に幅広く関心をもち，意欲的，主体的に活動を行い，その喜びを味わおうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・作品ファイルの整理状況 ・小テスト ・創作カード
芸術的な感受や表現の工夫	・感性を豊かにし，古典のよさや美しさを感じ取り，創造的な表現を工夫しているか。	・提出作品 ・ファイルの整理状況 ・創作カード
創造的な表現の技能	・さまざまな書を通して，自己を主体的に表現する能力を伸ばし，実用的な表現や芸術的な表現の技能を高めているか。	・提出作品 ・作品ファイル
鑑賞の能力	・書が生活の中で果たしている役割，書の文化や伝統を幅広く理解し，そのよさや美しさを深く味わっているか。	・小テスト ・ファイルの整理状況 ・創作カード ・発表

3　学習計画等

<table>
<tr><th>学期</th><th>考査</th><th>月</th><th>学習内容</th><th>学習のねらい</th></tr>
<tr><td rowspan="4">1学期</td><td rowspan="2">中間</td><td>4</td><td>1　篆書の学習
・様々な篆書
・篆書の特徴</td><td rowspan="4">代表的な篆書の古典を鑑賞し，それぞれの古典について時代背景などの知的理解を経て，書体や書風に即した用筆・運筆，字形や全体構成を学び，あわせて日常生活に使用されている例などを考え、篆書の特徴を理解します。

篆書の学習をふまえて，自分の氏名を篆書体で石に刻します。字形の美しさや全体構成，線の切れ味も大切に刻します。

完成した印は、2 学期以降で作成する作品に押印します。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>・泰山刻石
・金文

2　篆刻の学習</td></tr>
<tr><td rowspan="2">期末</td><td>6</td><td>・印稿
・布字
・運刀
・押印、補刀</td></tr>
<tr><td>7</td><td>・完成</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2学期</td><td rowspan="2">中間</td><td>9</td><td>3　隷書の学習
・様々な隷書
・乙瑛碑
・居延新簡</td><td rowspan="3">代表的な隷書の古典を鑑賞し，それぞれの古典について時代背景などの知的理解を経て，書体や書風に即した用筆・運筆，字形や全体構成を学び，創作に生かしていきます。

草書の古典を鑑賞し、それぞれの用筆と運筆のリズム及び形の変化に注目し、これまで学習した漢字の古典と異なる美しさを表現します。

篆書・隷書・草書の各古典で習得した技法を生かし，創意工夫をこらして作品を制作します。

仮名における連綿と変体仮名の効果を学習します。</td></tr>
<tr><td>10</td><td>草書の古典
・書譜
・十七帖</td></tr>
<tr><td rowspan="2">期末</td><td>11</td><td>・創作

7　仮名の学習
・連綿と変体仮名</td></tr>
<tr><td>12</td><td>同上</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">3学期</td><td rowspan="3">学年末</td><td>1</td><td>・高野切第一種
・三色紙</td><td>古典の臨書により格調高い表現に触れ、それはどのような技法によって実現されているかを感じ、追体験を行います。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>8　漢字仮名交じりの書の学習
・様々な表現
・古名跡に学ぶ表現
・様々な表現の工夫</td><td rowspan="2">用具・用材の工夫や表現形式に応じた全体構成，古典の鑑賞に基づく表現の工夫と個性的な表現などを学んでいきます。
また身の回りにある書や、先人の残した足跡などに目を向け，個性豊かな文字にもふれます。
これまでに学習した成果を生かして創作します。
また、お互いの作品を鑑賞し、書の鑑賞力を高めます。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>・創作</td></tr>
<tr><td>課題提出物等</td><td colspan="4">1　原則として、毎時間作品を完成させます。
2　授業中に完成させた作品をファイルします。
3　学期に２回程度実技試験（清書）を行います。
4　創作は、創作カードに基づいて行います。</td></tr>
</table>

教　科	外国語	単位数	2	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	オーラルコミュニケーションⅠ								

使用教科書	SELECT Oral CommunicationⅠ（三省堂）
副教材等	

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	① 身近な話題についての英語を聞き取れるようにします。 ② 自分の考えや意見を整理して、英語で伝えられるようにします。 ③ 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけます。 ④ 海外の文化に目を向け、理解する態度を身につけます。
評　価　方　法	学期ごとに期末考査のみを行います。リスニングテストを中心に、重要表現や授業の内容が確実に理解されているかを判断します。また授業中に行われるスピーキングテスト、提出物、授業での活動内容・態度を総合的に判断して評価を与えます。定期考査が５割、その他が５割の評価になります。
生徒へのアドバイス	授業に積極的に参加することが最も重要です。相手に理解してもらうためには言葉に出して伝えなければなりません。間違いを恐れず、口に出して言ってみることが一番の練習になります。単語を並べるだけの会話から、より豊かな表現が用いられるようにステップアップしていきましょう。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・基本的な英単語、会話文に積極的に慣れようとしているか。 ・必要に応じて辞書等を用い発話をするか。 ・間違いを恐れず英語を使おうとしているか。	1．学習活動への参加姿勢や態度 2．プリント及びワークシート 3．提出された課題の内容 4．定期考査
話す能力	・発表やペアワーク、グループワークに積極的に取り組んでいるか。 ・自分の考えを英語で伝えようとする態度･意欲が見られるか。	1．学習活動への参加姿勢や態度 2．プリント及びワークシート 3．発表の内容・態度 4．スピーキングテスト
聞く能力	・ＪＴＥ、ＡＬＴの発言やテープ・ＣＤを真剣に聞いて理解しようとする態度が見られるか。	1．学習活動への参加姿勢や態度 2．プリント及びワークシート 3．定期考査
読む･書く能力	・正しいアクセント・発音で読むことがきるか。 ・読み手に読んでもらえるよう分かりやすい文字が書けるか。	1．提出物の内容 2．定期考査
知識・理解	・英文の基本的な構造を理解し、自分で組み立てることが出来るか。 ・国際社会に目を向け、異文化を理解しようとしているか。	1．学習活動への参加姿勢や態度 2．提出物の内容 3．定期考査

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	Introducing Myself　自己紹介をしてみよう Lesson１　New Friends　はじめまして ［未来表現／不定詞の用法１］	「自己紹介」の仕方を学びます。 ・興味あるものを言う練習をします。
		5	Lesson２　Free Time　フリータイム ［現在形／過去形］	・余暇について話してみます。
	期末	5	Lesson３　TV Programs　好きな番組 ［動名詞］ Listen & Talk 1 : Boy friend［現在完了形］	・自分の好みを言う練習をします。（1）
		6	Game in English 1 : Square Game Lesson４　Our School　私達の学校	・学校について話してみます。
		7	Lesson５　Weather　天気・気候 ［There is/are ～／日付の言い方］	・天気・気候について話してみます。 ［助動詞 will］
2学期	中間	9	Lesson６　Sports　好きなスポーツ ［比較表現］ Lesson７　Telling the Way　道案内	・自分の好みを言う練習をします。（2） ・道をたずねる練習をします。
		10	［SVOO］ Listen & Talk 2 : Radio News ［関係代名詞／受身形］	
	期末	10	Games in English 2 : Guess What! Game Lesson８　Kyoto　観光案内 ［How long ～?］	・乗り物での行き方をたずねる練習をします。
		11	Lesson９　Shopping　買い物 ［現在進行形／SVC］	・ほしいものを買う練習をします。
		12	Lesson10　Restaurant　食事 ［不定詞の用法２］	・食事を注文する練習をします。
3学期	学年末	1	Lesson11　Telephone Call　電話 ［that 節／ask＋人＋to ～］ Listen & Talk 3 : Leisure ［接触節／関係副詞］	・伝言する練習をします。
		2	Games in English 3 : Math Bingo Game Lesson12　Making a Plan　約束 ［Let's ～／Shall I(we) ～?］	・誘う／誘いに応じる練習をします。
		3	Lesson13　Foreign Countrie 行ってみたい国 ［Why－Because／仮定法過去］	・理由を述べる練習をします。
課題提出物等	１．レッスンごとのワークシート ２．学習の進度に応じたプリント			

教　科	外国語	単位数	2	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	英語 II								
使用教科書	Viva English II　NEW EDITION　（第一学習社）								
副教材等									

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	英語の基本的な知識や読み書きの能力を身につけつつ、目的や場面に応じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を育てる。
評価方法	原則として各学期に行われる定期考査の得点で 7 割、日常の学習における課題の提出、授業の取り組み姿勢、小テストなどで 3 割の総合評価とする。
生徒へのアドバイス	易しい例文を声に出して読み、覚えること。基本的な文法事項は反復練習を行い、同じ問題を繰り返し解くこと。できるだけ多くの単語を覚えること。授業に積極的に参加し、復習を確実に行うことが大切です。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・授業中の活動（発言や質問、ノート整理）を積極的に行っているか。 ・課題をきちんと提出しているか。	・出席状況の確認 ・授業を受ける態度の観察 ・ノートや課題の点検
話す・聞く能力	・英語を正確に音読できるか。 ・英語を聞いて相手が伝えたいことを把握できるか。 ・伝えたいことを英語で表現できるか。	・小テスト（音読・リスニング） ・オーラルテスト ・Team Teaching での理解度
書く能力	・語彙力は身についているか。 ・学習した表現を用いて英文が書けるか。 ・伝えたいことを英語で表現できるか。	・小テスト（単語） ・課題テスト ・定期考査のライティング問題
読む能力	・語彙力は身についているか。 ・教科書の英文を理解し、適切な日本語にまとめられるか。	・小テスト（単語） ・授業での Q&A ・定期考査のリーディング問題
知識・理解	・言語やその運用についての知識が身についているか。 ・背景にある文化などを理解しているか。	・授業での Q&A ・レポート、定期考査の言語運用に関する問題

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	Lesson 11 On a Bus	・黒人解放運動につての文章を読む。 ・関係代名詞
		5	Lesson 11 On a Bus	・黒人解放運動につての文章を読む。 ・関係代名詞
	期末	5	Lesson 1 A Door to Tomorrow	・歌手の川島あいについての文章を読む。 ・助動詞＋have＋過去分詞 ・比較表現
		6	Lesson 1 A Door to Tomorrow	・歌手の川島あいについての文章を読む。 ・助動詞＋have＋過去分詞 ・比較表現
		7	Lesson 1 A Door to Tomorrow	・歌手の川島あいについての文章を読む。 ・助動詞＋have＋過去分詞 ・比較表現
2学期	中間	9	Lesson ２The Price for Convenience?	・自動販売機の便利さと問題点を考える。 ・分詞構文 ・過去完了形
		10	Lesson ２The Price for Convenience?	・自動販売機の便利さと問題点を考える。 ・分詞構文 ・過去完了形
	期末	10	Lesson 3 RoboCup	・ロボットのワールドカップについての文章を読む。 ・助動詞を含む受け身
		11	Lesson 3 RoboCup	・進行形の受け身
		12	Lesson 3 RoboCup	
3学期	学年末	1	Lesson 4 Communication in America And Japan	・日米のコミュニケーションスタイルの違い ・現在完了進行形 ・過去完了形
		2	Lesson 4 Communication in America And Japan	・日米のコミュニケーションスタイルの違い ・現在完了進行形 ・過去完了形
		3	文法のまとめ	
課題提出物等	1　学習の進度に応じてノートの提出 2　随時プリントなどの提出			

教 科	家　　庭	単位数	2	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科 目	家庭総合								
使用教科書	家庭総合　生活に豊かさをもとめて（第一学習社）								
副 教 材 等	家庭総合学習ノート（第一学習社）								

1　学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	食生活、次世代を育む生活、住生活などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。
評　価　方　法	・定期考査（中間もしくは期末考査・実技テスト）・・・・・・・・50～60% ・プリント・ノート提出・授業態度・意欲・調理実習の取り組み・ 40～50% ・定期考査と実習、プリント・ノートの提出物、授業態度を総合して評価します。 ・特に実技を伴う教科ですので、授業や実習へ取り組む態度を大切にします。
生徒へのアドバイス	・講義、実習など様々な形態の学習活動を行いますので、積極的に授業に取り組むとともに、毎時間の授業を大切にしてください。 ・学校での学習が日常の生活に活かせるようにすることが大切です。 ・プリント・ノートの提出物は、完成を目指して期限までに提出してください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・食生活、住生活、次世代を育む生活について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 ・実践的な態度を身につけているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・授業の中で使用するプリント ・授業ノート（学習ノート・板書用ノート） ・調理実習の作品
思考・判断	・食生活、住生活、次世代を育む生活を理解し、課題を見つけられるか。 ・課題の解決を目指し、適切に判断できる力を身につけているか。	・授業で使用するプリント ・授業中の意見や考えの発表内容や仕方 ・定期考査の記述問題の内容
資料活用の技能・表現	・食生活、住生活、次世代を育む生活を充実・向上させるために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。	・授業の中で使用するプリント ・授業中の発表の内容や仕方 ・定期考査の記述問題の内容 ・実習での技術評価
知識・理解	・家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。	・　定期考査 ・　実技テスト

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	2年次の学習内容・学習の方法について 第5章　食べる （1）　人と食生活 （2）　栄養と食品 1・栄養素と食品（炭水化物）	家庭総合2年次の授業の内容や進め方、評価方法について確認します。 人間と食べ物とのかかわり、食事の意義について考えます。また、各自の食の問題点をまとめ、その原因を考え、改善につながるようにします。 そのためには、食品の栄養的特質を理解したうえで、年齢にあった食品のバランスや分量など適切な食事が考えられるようにします。 また、実際に食事づくりができるようになるための基本的な知識・技術を学び、調理実習に生かすことができるようにします。さらには家庭での応用を目標とし、調理実習に取り組みます。 日本の食料事情を理解し、食の安全性について考えます。また、どのような食品を選ぶことがよいのか、購入基準とその保存方法についても考えられるようにします。
		5	1・栄養素と食品（蛋白質～ビタミン） 2・嗜好的な食品、加工食品 3・何をどれだけ食べればよいか？ 4・食品群と摂取量のめやす （5）献立と調理 3・調理の基本	
	期末	5	（5）献立と調理 2・食事づくりの手順	
		6	調理実習（3回位実施予定）	
		7	1・食事の計画	
2学期	中間	9	お弁当の献立作成 （3）食品の選び方 1・食品の安全性・衛生 2・表示を見て食品を選ぶ 調理実習（2回位実施予定）	
		10		
	期末	10	調理実習（2回位実施予定） 第2章　育つ・育てる （1）子どもの発達 1・胎児は母体とともに 2・子どもの心身の発達	妊娠のしくみや胎児の発育について理解し、母体の健康管理の重要さ、子どもの誕生について学習します。 また、子どもの発達と環境とのかかわりについて認識し、乳幼児期の重要性と、その発達には個人差と共に一定の順序と共通性があることを理解します。 親と社会の役割を理解するとともに、子どもを取り巻く現状を知り、子どもによりよい生活環境を保障することが、親や大人、社会の責任であることを理解します。
		11	3・子どもの成長と保育環境 4・生活習慣と遊びによる発達 （2）親の役割と保育 1・親と子―ともに育ちあう関係	
		12	2・親と子のかかわり	
3学期	学年末	1	3・家庭保育と集団保育 （3）子どもの福祉	
		2	第7章　住まう （1）人間と住まい （2）健康と住まいの科学 （3）住生活の管理と安全	住居の機能や人間と住まいの関わりについて考え、健康で衛生的な室内環境の要因について理解します。また、日本の住宅事情や最近の問題点を理解し、これからの住居は自然環境や社会環境と関連づけていくことが大切であることを理解します。
		3	（4）住生活と環境	
課題提出物等	・授業ノートやプリントの提出物は、いずれも完成させて期日までに提出することを目指して全員が取り組んでいきます。 ・年間調理実習代として２０００円を徴収させていただきます。（年７回位実施予定） ・調理実習では１学年で製作したエプロンを使用します。			

教　科	体育	単位数	1	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	体育理論								
使用教科書	現代保健体育（大修館）								
副教材等	なし								

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	体育・スポーツの意義やすばらしさを理解するとともに、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を習得します。
評価方法	定期考査と、提出物や出席等の平常点を加味して評価します。
生徒へのアドバイス	授業での知識等を理解し実践できるようにすることはもちろん、新聞やテレビ等のスポーツの大会や報道に接するなど、日常から体育・スポーツに関心を持って生活してください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	体ほぐしや体力トレーニングについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組む	授業への参加意欲の観察 提出物の読み取り テスト
思考・判断	体ほぐしや体力トレーニングについて学んだことを、自らの日常生活の中で実践しようとし、工夫している	授業への参加意欲の観察 提出物の読み取り テスト
知識・理解	体ほぐしの日常生活での重要性や体力トレーニングの行い方に理解している。	授業での態度の観察 提出物の読み取り テスト

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	体ほぐしの意義と行い方 ①現代社会における体と心	現代社会においての体と心、そして、その体と心からみた運動の意義について理解します。
		5	②体ほぐし運動とは	体ほぐしの３つのテーマ「体への気づき」「体の調整」「仲間との交流」について理解します。
	期末	5	③体ほぐしの運動の行い方	体ほぐしの運動の行い方について理解します。
		6	④体ほぐしの運動の実際	体ほぐしの運動の意義を理解した上で、体ほぐしの運動を実践します。
		7	評価	期末考査
2学期	中間	9	体力トレーニングの内容と行い方 ①運動と体力	体力の考え方とその必要性について理解します。
		10	②体力トレーニングの意義	なぜ、体力トレーニングが必要なのかを理解します。
	期末	10	③体力トレーニングの目的	トレーニングの目的に合わせたトレーニングがあることを理解します。
		11	④トレーニングプログラムの作成	トレーニング効果をあげるための基本原則を理解します。
		12	評価	期末考査
3学期	学年末	1	目的別の体力トレーニングの方法	筋力や瞬発力を高めるトレーニングの方法を理解します。
		2	目的別の体力トレーニングの方法	柔軟性、調整力、持久力を高めるトレーニングを理解します。
		3	評価	学年末考査
課題提出物等	各種レポート			

教　科	体育	単位数	1	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	体つくり運動								

使用教科書	
副教材等	ビジュアルスポーツ（大修館）

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	・体つくり運動の特性を理解し、体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに、自己の体力や生活に応じた体つくり運動を構成し活用することができる資質や能力を育てる。
評価方法	・体ほぐしや体力の向上を積極的に取り組めたか。 ・ねらいに応じた体つくり運動を構成し、積極的に取り組めたか。 ・服装や出席、参加態度を重視する。
生徒へのアドバイス	・基礎的な体力をつけていく上で必要な運動を行うので、継続的かつ積極的に行って欲しい。 ・授業を遅刻、欠席、見学せずに参加して欲しい。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・関心や意欲を高めるとともに、楽しさや心地よさを味わえるよう互いに協力して進んで運動をしようとする。健康や安全に留意して運動をしようとする。	・取り組み
思考・判断	・自分の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を工夫している。	・工夫して行なっているか。
運動の技能	・自分の生活や体力に応じて、体力を合理的に高めるための運動ができる。	・実技試験
知識・理解	・体つくり運動の意義や適切な行い方、心身への効果を理解するとともに、ねらいに即した体つくり運動の組み立て方を理解し、知識を身につける。	・筆記試験

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	・オリエンテーション ・身体計測	・年間計画をする。 ・身体計測の方法を知る。
		5	・ストレッチングの仕方	・ストレッチングの実践を通じて正しい方法を学ぶ。
	期末	5	・リズムに乗った運動	・リズム運動を通じて動くことの楽しさ、心地よさを体感する。
		6	・手具や用具を活用した運動	・基礎的な技能を習得し、更に発展した動きを創作する。
		7	・評価	・実技試験
2学期	中間	9	・水泳	・全身運動をすることにより体力を高める。
		10	・パワー系トレーニング	・様々な部位の筋肉を鍛えるトレーニングがあることを学ぶ。
	期末	10	・階段上り	・心肺機能を高めるとともに、特に下半身を鍛える意識を持つ。
		11	・ジョギング	・スタミナづくりだけでなく健康を維持増進させるためにも必要であることを理解する。
		12	・評価	・実技試験
3学期	学年末	1	・走力トレーニング	・持久走を行うことにより全身持久力を高める。
		2	・マラソン大会 ・インターバルトレーニング	・多くの運動を短い時間に数多くこなすことにより、体力が付くことを実感する。
		3	・評価	・実技試験
課題提出物等	・自分で様々なトレーニングを考えて、それをレポートとして提出してもらうことがある			

教　科	体育	単位数	1	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	スポーツⅠ								

使用教科書	
副 教 材 等	ビジュアルスポーツ（大修館書店）

1　学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	採点競技・測定競技の特性について理解させ、これらの高度な技能と審判法を習得できるようにするとともに、技能を発揮して競技ができる能力と態度を見につけます。
評　価　方　法	実技試験及び授業態度・取り組み方で評価します。
生徒へのアドバイス	欠席・遅刻・見学をしないようにしてください。 真面目に取り組んでください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	自ら進んで運動しようとする 公正・協力・責任などの態度を養う 健康・安全に留意する	授業への参加意欲の観察 レポート
思考・判断	自己の能力に合わせた課題を設定し、運動の特性に応じ、工夫して課題解決を目指している	授業への参加意欲の観察 口頭による試問
技能	運動技能を高めている 技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付ける	授業での態度の観察 実技試験等の結果分析
知識・理解	運動技能の構造や運動の学び方および各競技方法等、基礎的な事項を理解し知識を身に付ける	授業での態度の観察 競技会や発表会での態度の観察 口頭による試問

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	陸上競技（跳躍）	跳躍競技全般の特性を理解し、基礎的な跳躍能力や瞬発力を高めます。
		5	陸上競技（跳躍）	走幅跳の特性を理解し、その技能を高めます。自己の能力にあったトレーニング法を選択できるようにします。
	期末	5	陸上競技（跳躍）	三段跳の特性を理解し、その技能を高めます。自己の能力にあったトレーニング法を選択できるようにします。
		6	水泳競技	試しの記録会を行います。 水泳の特性を理解します。
		7	水泳競技	各泳法を身につけ、記録を向上させます。
2学期	中間	9	水泳競技	競技会を行い、評価します。
		10	陸上競技（投擲）	投擲競技全般の特性を理解し、投げる能力やパワーを高めます。
	期末	10	陸上競技（投擲）	やり投の特性を理解し、その技能を高めます。自己の能力にあったトレーニング法を選択できるようにします。
		11	陸上競技（投擲）	砲丸投の特性を理解し、その技能を高めます。自己の能力にあったトレーニング法を選択できるようにします。
		12	陸上競技（中・長距離走）	試しの記録会を行い、自己の能力を知ります。
3学期	学年末	1	陸上競技（中・長距離走）	陸上競技（中・長距離走）の特性を理解します。 自己の能力にあった練習を行えるようにします。
		2	陸上競技（中・長距離走）	自己の能力にあったペースで走れるようにします。
		3	陸上競技（中・長距離走）	競技会を行い、評価します。
課題提出物等	体調不良等の理由で授業に参加できない（見学する）者については、別にレポートを課す場合があります。			

<table>
<tr><td>教　科</td><td>体育</td><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">学科</td><td rowspan="2">健康スポーツ科</td><td rowspan="2">学年</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">全／選</td><td rowspan="2">全</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td>スポーツⅡ</td></tr>
<tr><td>使用教科書</td><td colspan="9"></td></tr>
<tr><td>副 教 材 等</td><td colspan="9">ビジュアルスポーツ（大修館）</td></tr>
</table>

1　学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	・球技の特性についての理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得できるようにするとともに、技能を発揮してゲームをすることができる資質や能力を育てます。
評　価　方　法	・積極的に取り組んでいるか評価します。 ・審判法を確実にできたか評価します。 ・服装や出席、参加態度を重視します。
生徒へのアドバイス	・その種目のスペシャリストを育成すべく授業を行なうので積極的に行ってください。 ・授業を遅刻、欠席、見学せずに参加してください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・チームにおける自分の役割を自覚して、責任を果たす。互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに勝敗に対して公正な態度をとろうとする。また練習場などの安全を確かめ、健康、安全に留意して練習やゲームをしようとする。	・取り組み
思考・判断	・自分やチームの能力に応じた課題を設定し、その課題の解決を目指して、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。	・工夫して行なっているか。
運動の技能	・チームの課題や自分の能力に応じて、選択した球技種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。	・実技試験
知識・理解	・体つくり運動の意義や適切な行い方、心身への効果を理解するとともに、ねらいに即した体つくり運動の組み立て方を理解し、知識を身につける。	・筆記試験

3　学習計画等

<table>
<tr><th>学期</th><th>考査</th><th>月</th><th>学習内容</th><th>学習のねらい</th></tr>
<tr><td rowspan="5">1学期</td><td rowspan="2">中間</td><td>4</td><td>・オリエンテーション
・バレーボール
オープン攻撃</td><td>・年間計画を理解します。
・醍醐味であるスパイクを確実に打てるようにします。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>・バレーボール
クイック</td><td>・戦術をたててゲームをするための基礎を身につけます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">期末</td><td>5</td><td>・バレーボール
三段攻撃</td><td>・相手チームの戦力を分析し、効率の良い攻撃方法で攻める事ができるようにします。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>・バレーボール
ゲーム、評価</td><td>・ゲームの運営と確実な審判法を学びます。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>・評価</td><td>・実技試験をします。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">2学期</td><td rowspan="2">中間</td><td>9</td><td>・サッカー
個人技能修得</td><td>・ドリブルやシュート、パスといった個人技能を身につけます。</td></tr>
<tr><td>10</td><td>・サッカー
システム練習</td><td>・チーム内で連係し、戦術を立てる基礎を身につけます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">期末</td><td>10</td><td>・サッカー
ミニゲーム、ゲーム</td><td>・ゲームの運営と確実な審判法を学びます。</td></tr>
<tr><td>11</td><td>・バドミントン
個人技能修得</td><td>・クリア等の基本技能を身につけます。</td></tr>
<tr><td>12</td><td>・評価</td><td>・実技試験をします。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3学期</td><td rowspan="3">学年末</td><td>1</td><td>・バドミントン
ダブルスの練習</td><td>・ダブルスの戦術を身につけます。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>・バドミントン
ゲーム</td><td>・ゲームの運営と確実な審判法を学びます。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>・評価</td><td>・実技試験をします。</td></tr>
<tr><td>課題提出物等</td><td colspan="4">体調不良等の理由で授業に参加できない（見学する）者については、別にレポートを課す場合があります。</td></tr>
</table>

教　科	体育	単位数	1	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	選
科　目	スポーツⅢ（柔道）								

使用教科書	
副 教 材 等	ビジュアルスポーツ（大修館書店）

1　学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	武道の精神を学び、礼・節度を心得た態度で、人に接することができます。柔道の精神精力善用・自他共栄を理解し、万事おいて行動できるようになります。 技の合理性を理解し、自分にあった技の習得を目指します。
評　価　方　法	相手に対する礼・節ができているか評価します。 投げ技の理解度、かかり練習、自由練習での技の連携、試合練習を評価します。
生徒へのアドバイス	授業に欠席・見学をせずに柔道着を着用して参加してください。 怪我をしないように授業に集中して参加してください。 技術の習得のため反復練習をおこなってください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	柔道の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるよう伝統的な行動の仕方に留意して、お互いに相手を尊重し、進んで練習や試合に取り組もうとする。	礼儀ができているかどうか。 自ら進んでかかり練習や自由練習をするかどうか。
思考・判断	自分の能力に応じた技を習得するための課題を設定し，その解決を目指して、練習の仕方や試合の仕方を工夫する.	授業業への参加意欲の観察 個人やグループのカードの読み取り
技能	特性に応じた技能を身に付け、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる.	実技試験の結果分析 授業場面での態度等の観察
知識・理解	柔道の特性や学び方、技術の系統性・構造・合理的な練習の仕方を理解するとともに、試合や審判の方法を理解し、知識を身に付ける。	かかり練習の中で、崩し・つくり・かけの合理性ができているか。 ルール・審判の仕方が理解できているかどうか。

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
１学期	中間	4	オリエンテーション 受け身・補強運動 投げ技の復習	１年次に行なった技の復習をします。
		5	固め技の入り方 足技　大内刈り・小内刈り・膝車	相手の動きを制しながら固め技に入ります。 動きの中で技をかけます。
	期末	5	固め技の入り方 腰技　大腰・跳ね腰・払い腰	相手の動きにあわせて固め技に入ります。 動きの中で技をかけられるようにします。
		6	連絡変化 足技からの変化 大内刈り・小内刈りからつなげる。	かかり練習の中で、連絡技ができるようにします。 自由練習の中で連絡技ができるようにします。
		7	評価	技の合理的な理解ができているか確認します。 自由練習において、礼儀・態度ができているか確認します。
２学期	中間	9	固め技の入り方の復習 受け身・投げ技等の復習 足技　大外刈り・内股	投げた後に固め技に入ります。 動きの中で技をかけられます。
		10	絞め技の入り方 手技　背負い投げ・体落とし・背負落し	絞め技の理屈を理解します。 動きの中で技をかけられます。
	期末	10	絞めわざから固め技への連絡 連絡変化 大内かりから大外刈り・内股	絞め技を逃げる相手を固め技に入ります。 技をかけるタイミングができているか確認します。
		11	固め技から絞め技への変化 連絡変化 大内刈・小内刈から背負い投げ・体落し	固め技から逃げる相手を絞め技に入ります。 技をかけるタイミングができているか確認します。
		12	評価	技の合理的な理解ができているか確認します。 自由練習の中で連絡変化技を意識して用いているか確認します。
３学期	学年末	1	固め技・絞め技の復習 自分にあった連絡変化技を考える。	自分にあった技の工夫が見られるか確認します。
		2	関節技の入り方 試合　ルール・試合方法 団体戦をおこなう。	間接技の合理的な理解をします。 審判法や試合のやり方を理解します。
		3	試合　評価	安全に対する配慮をします。 勝負に対する意気込みと勝敗に対する配慮します。 礼儀・態度ができていることを確認します。
課題提出物等	体調不良等の理由で授業に参加できない（見学する）者については、別にレポートを課す場合があります。			

<table>
<tr><td>教　科</td><td>体育</td><td rowspan="2">単位数</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">学科</td><td rowspan="2">健康スポーツ科</td><td rowspan="2">学年</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">全／選</td><td rowspan="2">全</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td>スポーツIII（剣道）</td></tr>
<tr><td>使用教科書</td><td colspan="9"></td></tr>
<tr><td>副 教 材 等</td><td colspan="9">ビジュアルスポーツ（大修館）</td></tr>
</table>

1　学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	武道の特性について理解させ基本的技能を習得させると共に相互に人格を認め合い尊重し合いお互いが協力して練習や審判ができる能力、態度を育てる。
評　価　方　法	相手に対する礼節ができている。 試合練習での打突が正確にできている。 試合でのルールを理解できている。
生徒へのアドバイス	授業に欠席・見学をせずに参加すること。 怪我をしないように授業に集中して参加する。 技術の習得のため反復練習をおこなう。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	剣道の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるよう伝統的な行動の仕方に留意して、お互いに相手を尊重し、進んで練習や試合に取り組もうとする。	礼儀ができているか。 自ら進んで練習をするかどうか。
思考・判断	能力に応じた技を習得するための課題を設定し、その解決を目指して，練習の仕方や試合の仕方を工夫している．	授業への参加意欲の観察をする。 個人やグループのカードの読み取りをする。
技能	特性に応じた技能を身に付け、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる．	実技試験を実施する． 授業場面での態度等の観察をする．
知識・理解	剣道の特性や学び方、技術の系統性・構造・合理的な練習の仕方を理解すると共に、試合や審判の方法を理解し、礼法知識を身に付ける	練習の中で間合い・打突の正確さや理合を理解できているか。 ルール・審判のやり方が理解できているか。

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	防具の着装 打ち返し・面打ち 小手打ち・胴打ち	正しく打ち返しができるようにする。
		5	打ち返し・面打ち 小手打ち・胴打ち	正しい打突ができるようにする。
	期末	5	打ち返し・面打ち 小手打ち・胴打ち	正しく打突ができるようにする。
		6	面打ち・小手打ち 胴打ち・二段打ち	二段打ちは、小手から面へとつないでできるようにする。
		7	二三段打ち　小手→面　面→胴 小手→面→胴	三段打ちは、小手から面・面から胴へとつないでできるようにする。
2学期	中間	9	払い技　払い面・払い小手 引き技　引き面・引き小手・引き胴	正確に払うことができるようにする。 正しい鍔迫り合いから相手の体勢を崩し打突できるようにする。
		10	出ばな技 出ばな面 出ばな小手	技を起こそうとした瞬間に打突できるようにする。
	期末	10	出ばな面 出ばな小手 体当たり	腰と腕の位置が正しく相手に当たるようにする。
		11	面体当たり　引き面・引き小手・引き胴 小手体当たり	腰と腕の位置が正しく相手に当たるようにする。
		12	審判法　反則・罰則評価	場外・鍔迫り合いの反則を理解できるようにする。
3学期	学年末	1	試合班によるリーグ戦	お互いが協力してスムーズに班に分かれるようにする。
		2	試合班によるリーグ戦	試合の礼法がしっかりできている。交代がスムーズに移動できるよえにする。
		3	評価	試合の動きの中で正確に打突できるようにする。
課題提出物等	体調不良等の理由で授業に参加できない（見学する）者については、別にレポートを課す場合があります。			

教　科	体育	単位数	1	学科	健康スポーツ科	学年	2	全／選	全
科　目	野外活動								

使用教科書	
副教材等	ビジュアルスポーツ（大修館）

1　学習の到達目標等

学習の到達目標	自然とのかかわりの深い野外の運動の特性について理解し、その知識と技能を習得できるようにするとともに、自然の中での行動の仕方を身につけ、自然に親しむことができる資質や能力を育てます。
評価方法	実習の態度・取り組みやレポート等を考慮して成績を出します。
生徒へのアドバイス	スキー実習はもちろん、普段の授業も欠席せず、積極的に取り組んでください。

2　評価の観点・内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	自ら進んで運動しようとする 公正・協力・責任などの態度を養う 健康・安全に留意する	授業・実習への参加意欲の観察 個人やグループのカードの読み取り テスト
思考・判断	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題解決を目指し、工夫している	授業・実習への参加意欲の観察 個人やグループのカードの読み取り テスト
技能	運動技能を高めている 体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付ける	授業・実習での態度や行動等の観察
知識・理解	運動技能の構造と運動の学び方、 体ほぐしの意義等の基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける	授業・実習での態度の観察 個人カードの記述の読み取り

3　学習計画等

学期	考査	月	学習内容	学習のねらい
1学期	中間	4	オリエンテーション 集団行動	スキー実習の概略を理解する。 集団としての秩序を保てるようにします。
		5	スポーツテスト スキーの特性・歴史	自己の能力を理解します。 特性や歴史を理解します。
	期末	5	基礎体力づくり（筋力・敏捷性等）	実習に備え、基礎体力を身につけます。
		6	基礎体力づくり（瞬発力・巧緻性）	実習に備え、基礎体力を身につけます。
		7	スキー理論	スキーの科学的理論を理解します。
2学期	中間	9	スキー技能 （含 ビデオ視聴）	スキーの各種技能を理解します。
		10	イメージトレーニング （板・靴・ストック等利用）	用具を利用し、歩行等を体感します。
	期末	10	前年度のスキー実習のビデオ視聴	実習の様子を知り、自分たちの実習に活かします。
		11	実習班編成 生活班編成	経験等から、技能別の班編成をします。 実習以外の場面での班編成をします
		12	係・組織決定	実習班及び生活班内の係や組織を決定します。
3学期	学年末	1	栞の作成 実習の最終確認	栞を作成します。 スキー実習の全体像を理解し、安全にスムーズに実施できるようにします。
		2	スキー実習 スキー実習反省（含 ビデオ視聴） 栞のまとめ・資料等の整理・提出	実習に参加します。 実習全体を反省し、まとめたものを提出します。
		3	次年度の実習（マリンスポーツ）に向けて 評価	次年度の実習の概略を理解します。 １年間のまとめをし、評価します。
課題提出物等	しおり、各種レポート等			